



# とちぎ 地域医療

## 女性医師確保

□ 下 □

子育てとの両立を目指す女性医師支援をテーマにした講習会やシンポジウムが県内でも相次いでいる。

「復帰する上で大切なのは、やはり働く環境。私は偶然、足利赤十字病院に勤務したのは幸運だった」

### 勤務先変更3割

県医師会などが昨年十二月、宇都宮市内で開いたシンポジウム。大学生や研修医などを前に、長女を出産した足利日赤小児科の成相枝織医師は充実した支援制度を紹介した。

県医師会勤務医部会が二〇〇七年夏に実施した調査で、出産や育児などで休職した経験

## 県が支援事業

のある県内の女性勤務医のうち、復帰後に「仕事がつい」と感じた割合は三割に上る。

フルタイムで働くのは難しかったためか、休職後は三割が勤務先を変え、非常勤などで元の職場に復帰したのは二割近かった。

医療機関だけではないが、国の調査で県内医師数(〇六年十二月末現在)は四千二百二十四人で、女性は二割に届かない七百二十七人だった。

しかし年代別で見ると、三十代の四人に一



足利赤十字病  
成相

大田  
新

女性医師支援をテーマにした昨年12月のシンポジウム。成相枝織医師(中央)は足利日赤の手厚い制度を紹介した。宇都宮市陽西町

## 生活便利帳

海外で必要な備品の確認を  
春休みに海外旅行を予定している方も多いでしょう。交通手段、目的地の情報に加え、宿泊するホテルの様子も事前に確認しましょう。歯ブラシ、ひげそり、室内用スリッパ、寝間着などがなくとも少なくありません。国・地域によって、電圧、コンセントの形はさまざまのため、対応するプラグが必要です。必要な備品を荷物に加えておくと、旅先であわてずに済みます。

## メリット提供で離職防止

中核病院の医師不足に拍車を掛けない。導入きっかけに  
このため県は新年度から、子育てでフルタイムの勤務が難しい女性医師の離職防止などを旨とする「短時間正規雇用支援事業」に乗り出す。

勤務自体の負担を軽減し、医療機関には不足する分の代替医師を雇用する人件費の一部を国と県で助成する。課題は中核病院に限っておらず、実際の需要も未知数だ。予算規模も限られ、「短期間でも利用してもらい、制度導入のきっかけにしてほしい」(県保健福祉部)としている。

院内保育も必要  
「民間病院は制度として取り入れなくても現状で柔軟に対応している。院内保育所などの環境も同時に整えないと、本当の支援につながらない」。県病院協会の太田照男会長は強調した。  
同協会の調査(〇七年三月)で、院内保育所が整備されているのは、回答した六十病院のうち二十五カ所。設置数も二十四時間対応も、中核病院が多い公的より民間の方が大きく上回った。  
足利日赤で支援制度を利用する島田瑞穂医師は「パートの方が時間も有効に使え、収入面だけでは常勤のメリットは低い」と指摘する。  
自らの経験から「専門医の資格取得を後押しする態勢など、常勤で残るメリットを提供していくべきです」。

短時間正規雇用にも  
この企画は、くらし文化部の渡辺達也が担当しました。

# 短時間正規雇用にも助成

生活スタイル 安心・シニア・きずな エンタメ・レジャー 地域・福祉・科学 土けんこう・医療 日とちぎみゆ